



Joy for Life

2023年3月期 通期決算概況

2023年5月16日

株式会社 J-オイルミルズ

問い合わせ先：

コーポレートコミュニケーション部 Tel. 03-5148-7101

Agenda

1

2022年度 通期決算概況

2

2023年度 業績予想および重点取り組み

3

参考資料

2022年度 連結業績概要

(億円)	2021年度 通期実績	2022年度 通期実績	前年同期比	2/3修正 通期予想	通期予想比
売上高	2,015.5	2,604.1	129.2%	2,600.0	100.2%
営業利益/営業損失	▲0.2	7.3	-%	5.0	146.9%
経常利益	6.0	14.4	240.7%	10.0	143.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	19.5	9.9	50.5%	9.0	109.6%
営業利益率	—	0.3%		0.2%	
ROE	2.1%	1.0%		1.0%	
ROIC	▲0.0%	0.4%		0.2%	
EPS	59.2	29.8		27.2	

2022年度実績

売上高

- 原料価格高騰を受けた価格改定とミール販売価格の上昇により増収

営業利益

- 段階的な価格改定の実現に加え、継続的なコストダウンに取り組んだことにより増益

純利益

- 前期に計上した特別利益※の影響および繰延税金資産の一部取り崩しにより減益

※ケミカル事業関連売却益約13億円など

2022年度 セグメント別業績

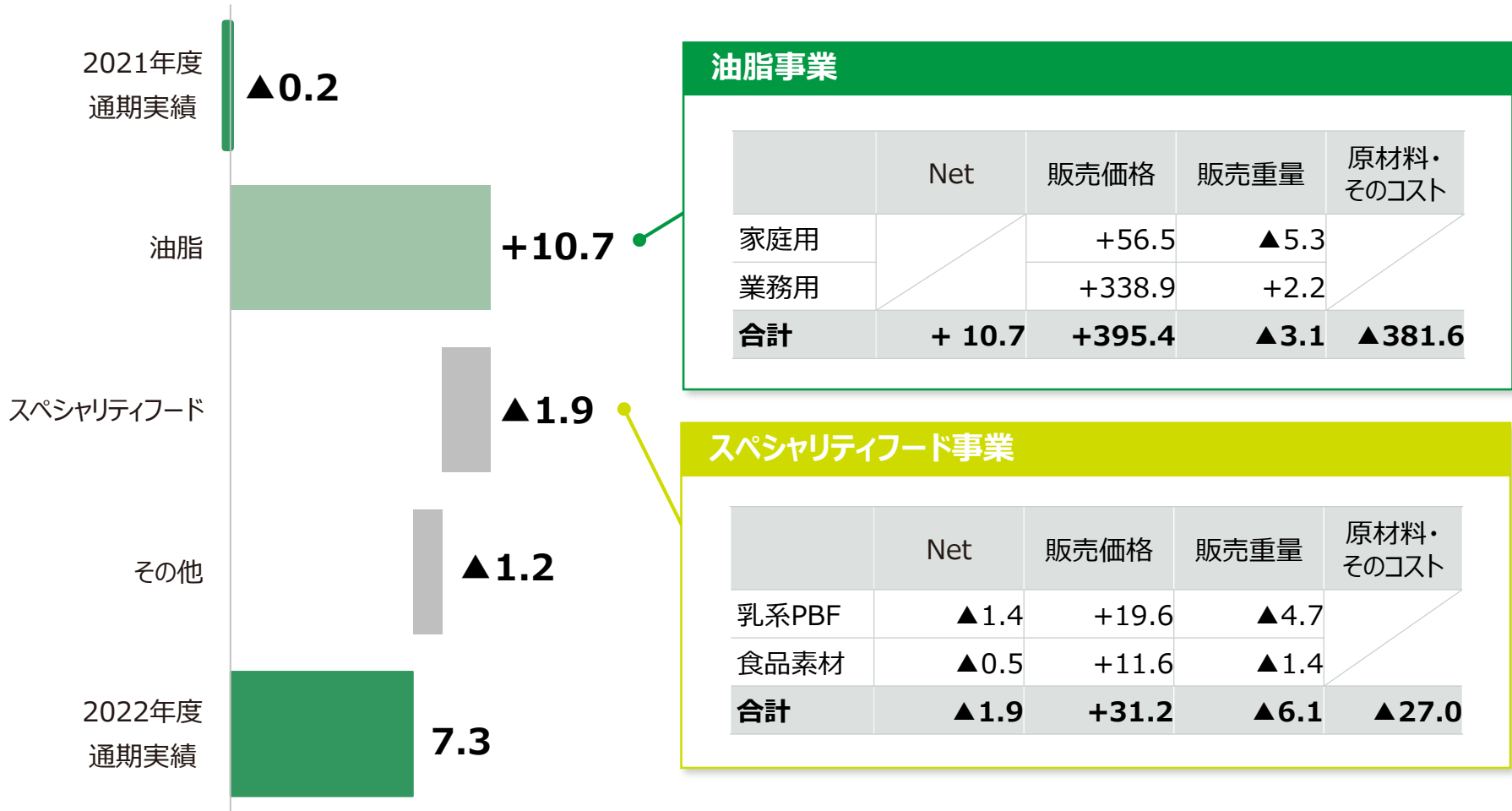
(億円)	2021年度 通期実績	2022年度 通期実績	前年同期比	2/3修正 通期予想	予想比
売上高					
油脂事業	1,783.6	2,365.1	132.6%	2,355.0	100.4%
スペシャルティフード事業	211.3	228.5	108.1%	235.0	97.2%
（内乳系PBF）※	127.0	135.2	106.5%	140.0	96.6%
（内食品素材）※	84.3	93.3	110.6%	95.0	98.2%
その他事業	20.6	10.5	51.0%	10.0	105.0%
連結合計	2,015.5	2,604.1	129.2%	2,600.0	100.2%
営業利益					
油脂事業	3.3	13.9	428.4%	10.0	139.4%
スペシャルティフード事業	▲6.2	▲8.2	-	▲6.5	-
（内乳系PBF）※	▲8.7	▲10.1	-	▲9.1	-
（内食品素材）※	2.5	1.9	78.1%	2.6	73.8%
その他事業	2.7	1.6	56.7%	1.5	103.4%
連結合計	▲0.2	7.3	-	5.0	146.9%

※2022年4月より油脂加工品を乳系PBFに名称変更、テクスチャーデザインとファインを食品素材事業に集約

2022年度 営業利益増減益分析

前年同期比較

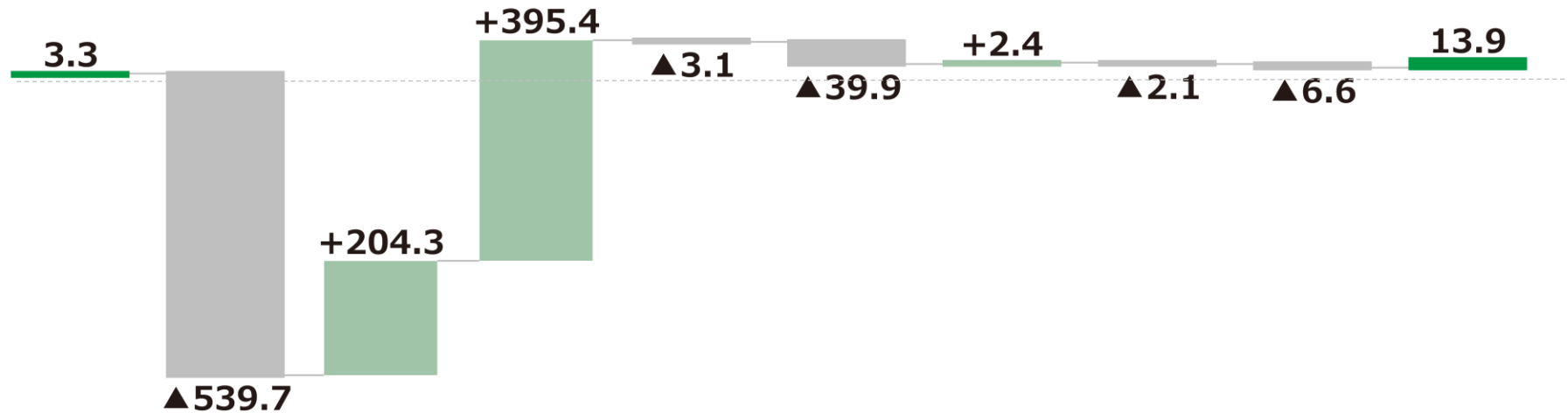
(億円)



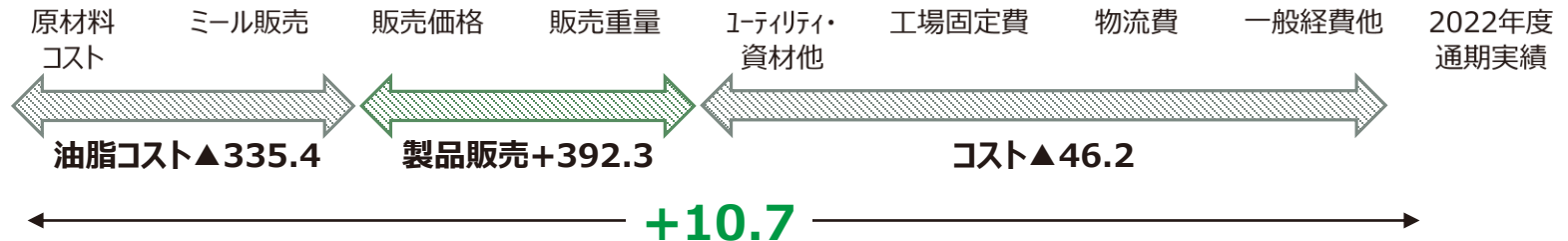
2022年度 油脂事業 営業利益増減分析

前年同期比較

(億円)



2021年度
通期実績



*為替・・・21年度:110円/1ドル、22年度:131円/1ドル (期中平均レート)
※増減分析の詳細については、参考資料をご参照ください

高付加価値品

セグメント別売上高

(億円)

		2021年度	2022年度	前年同期比
油脂事業	家庭用	123.2	123.7	100.4%
	業務用	275.1	414.6	150.7%
	合計	398.3	538.3	135.2%
スペシャルティフード事業		102.5	111.5	108.8%
高付加価値品合計		500.7	649.8	129.8%

連結売上高・粗利益

(億円)

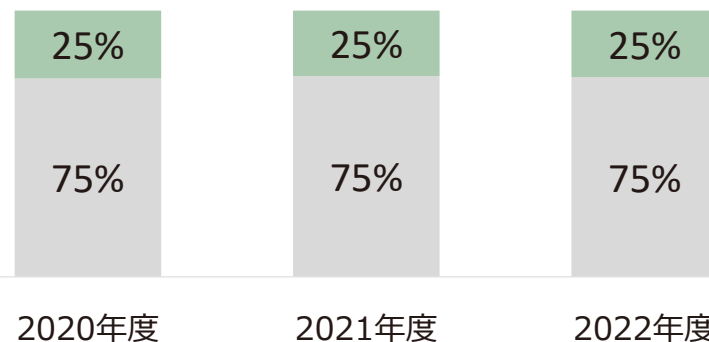
		2021年度	2022年度	前年同期比
高付加価値品	売上高	500.7	649.8	129.8%
	粗利益	105.9	96.4	91.0%
	粗利益率	21.2%	14.8%	▲6.3ppt※

※前年同期差

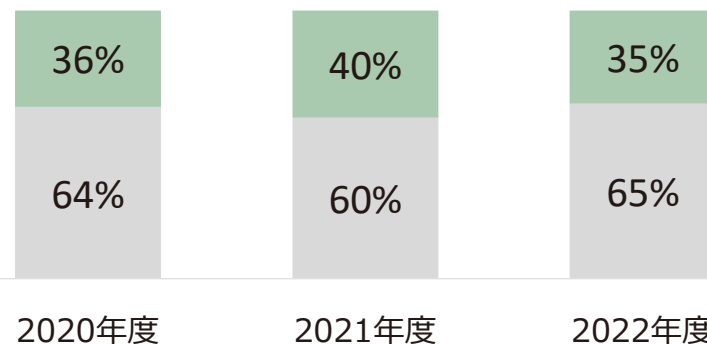
高付加価値品 連結構成比推移

■ 汎用品 ■ 高付加価値品

売上高



粗利益



B/Sの状況

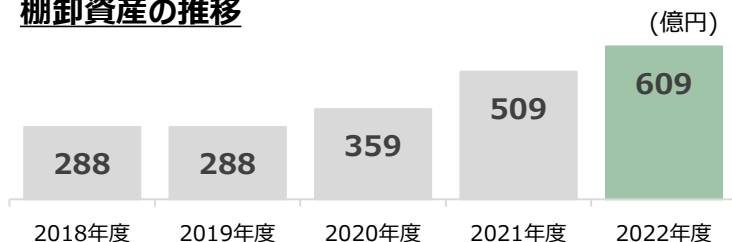
- 総資産は、売上債権と棚卸資産の増加により前年期末から増加
- 負債は、運転資金の増加を有利子負債で対応したことから、前年期末から増加

連結貸借対照表

	21年期末	22年期末	増減
流動資産	942	1,108	+166
現預金	36	24	▲12
売上債権	351	443	+92
棚卸資産	509	609	+100
その他	46	32	▲14
固定資産/繰延資産	675	678	+3
有形・無形資	542	541	▲0
投資その他	133	137	+4
資産計	1,617	1,786	+169

- 原料価格上昇による棚卸資産の増加

棚卸資産の推移



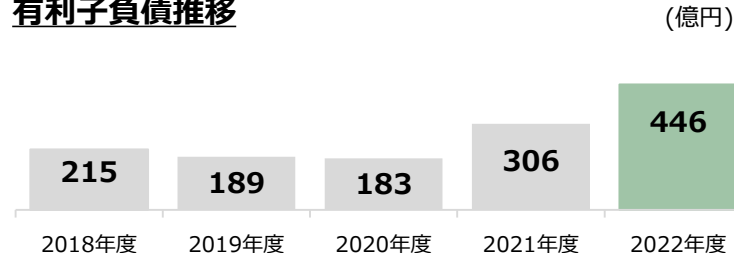
(億円)

	21年期末	22年期末	増減
負債	672	844	+172
仕入債務	171	182	+12
有利子負債	306	446	+140
引当金	44	44	▲0
その他	151	171	+20
純資産	945	943	▲3
株主資本	900	898	▲2
包括利益他	42	41	▲1
非支配株主持分	4	4	+0
負債・純資産計	1,617	1,786	+169

- 原料価格上昇により運転資金が増加し、有利子負債※が増加
- 自己資本比率: 52.5%、D/Eレシオ: 0.47 (22年期末)

※有利子負債…社債と借入金の合計値を使用

有利子負債推移

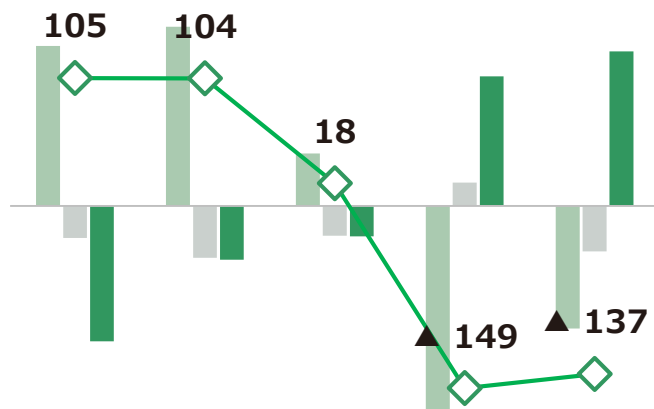


C/F・設備投資

- 2021年度より、原料価格高騰が価格改定に先行したため、営業キャッシュフローは悪化傾向だったが、価格改定の実現にともない足元では改善傾向
- 投資有価証券や遊休資産売却等を進めることで資産効率改善に努めた

年度別推移

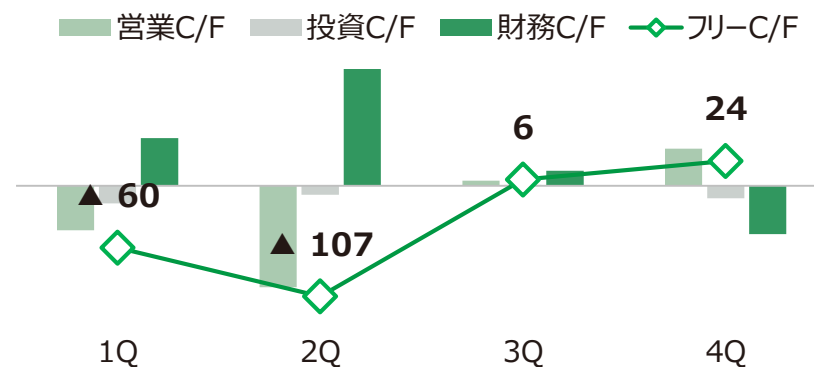
(億円)



(年度)	2018	2019	2020	2021	2022
営業C/F	131	146	43	▲ 168	▲ 100
投資C/F	▲ 26	▲ 42	▲ 24	19	▲ 37
財務C/F	▲ 111	▲ 44	▲ 25	106	126
フリーC/F	105	104	18	▲ 149	▲ 137

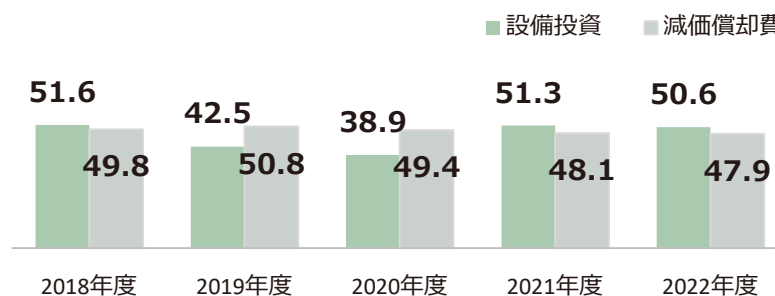
四半期別推移 - 2022年度 -

(億円)



設備投資

(億円)



Agenda

1 2022年度 通期決算概況

2 2023年度 業績予想および重点取り組み

3 参考資料

2023年度 連結業績予想

(億円)	2022年度 実績 通期	2023年度 予想			前年同期差	前年同期比
		上期	下期	通期		
売上高	2,604.1	1,290.0	1,330.0	2,620.0	+15.9	100.6%
営業利益	7.3	17.0	13.0	30.0	+22.7	408.5%
経常利益	14.4	18.0	16.0	34.0	+19.6	236.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	9.9	14.5	14.0	28.5	+18.6	288.9%
営業利益率	0.3%			1.1%	+0.8ppt	
ROE	1.0%			3.0%	+2.0ppt	
ROIC	0.4%			1.5%	+1.1ppt	
EPS	29.8			86.2	+56.4	

2023年度予想

売上高

- 価格改定や高付加価値品の販売重量アップにより増収

営業利益

- 原料コストに応じた価格改定および製品価値に見合った価格の実現や不採算事業の収益性改善により増益

2023年度 セグメント別業績予想

(億円)	2022年度 実績	2023年度 予想	前年同期差	前年同期比
売上高				
油脂事業	2,365.1	2,358.0	▲7.1	99.7%
スペシャルティフード事業	228.5	253.0	+24.5	110.7%
(内乳系PBF)	135.2	145.0	+9.8	107.2%
(内食品素材)	93.3	108.0	+14.7	115.8%
その他事業	10.5	9.0	▲1.5	85.8%
連結合計	2,604.1	2,620.0	+15.9	100.6%
営業利益				
油脂事業	13.9	30.0	+16.1	215.2%
スペシャルティフード事業	▲8.2	0.0	+8.2	-
(内乳系PBF)	▲10.1	▲4.0	+6.1	-
(内食品素材)	1.9	4.0	+2.1	208.6%
その他事業	1.6	0.0	▲1.6	-
連結合計	7.3	30.0	+22.7	408.5%

2023年度業績予想 営業利益増減益分析

前年同期比較

(億円)

2022年度
通期実績

7.3

油脂

+16.1

油脂事業

	Net	販売価格	販売重量	原材料・ そのコスト
家庭用		+41.4	+0.9	
業務用		▲17.2	+1.2	
合計	+16.1	+24.1	+2.1	▲10.2

スペシャルティフード

+8.2

スペシャルティフード事業

	Net	販売価格	販売重量	原材料・ そのコスト
乳系PBF	+6.1	+4.5	▲2.0	
食品素材	+2.1	+8.6	+2.8	
合計	+8.2	+13.1	+0.8	▲5.7

その他

▲1.6

2023年度
通期予想

30.0

第六期中期経営計画



	第五期中計 2017~2020	第六期中計 2021~2026	目指すべき姿 2030
成長戦略	<ul style="list-style-type: none"> ● 高付加価値品の粗利益構成比増加 ● 油脂製品の粗利益率改善 ● マレーシアでのM&Aによる事業展開 	<ul style="list-style-type: none"> ● JOYLブランド価値向上 ● 高付加価値品の拡大 ● 油脂汎用品の収益力改善 ● 海外・スペシャリティフード事業強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● JOYLブランド確立 ● 高付加価値品の拡大加速 ● 油脂汎用品の安定的収益創出 ● 海外・スペシャリティフード事業拡充
構造改革	<ul style="list-style-type: none"> ● SKU削減 ● グループ会社統合 ● 事業撤退/譲渡 	<ul style="list-style-type: none"> ● バリューチェーン&業務プロセス改革 ● 資産効率改善 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産体制の最適化完了 ● 資産効率の一層の改善
経営基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ● ガバナンス強化 ● コーポレート機能の強化 ● 人事制度の改定 	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン ● リスク対応力・グループガバナンス強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 選ばれる会社へ ● グループ会社ガバナンス強化 (海外含む)

2023年度のポイント

シェアアップと
マージン改善による
利益拡大

コミュニケーション
ブランド育成・
海外事業の基盤強化

マーガリン事業の
収益改善・
バリューチェーン改革
推進による効率化

機構改正による戦略目標達成への実効性強化

- 経営メンバーの役割と執行責任の明確化（CxOの導入）
- 機能別体制とすることで成長戦略と構造改革の実効性を強化
- 海外事業部など専門部署の新設による推進力強化

シェアアップとマージン改善による利益拡大

勝てる製品へのシフト・拡大
によるシェアアップ

安定的な収益確保

商品ポートフォリオの強化・改善

外部環境に応じた
マージンコントロール

高付加価値品の拡大

- “低負荷”を強みに面を広げ、当社シェアを拡大

ダウンサイジング・SKU削減

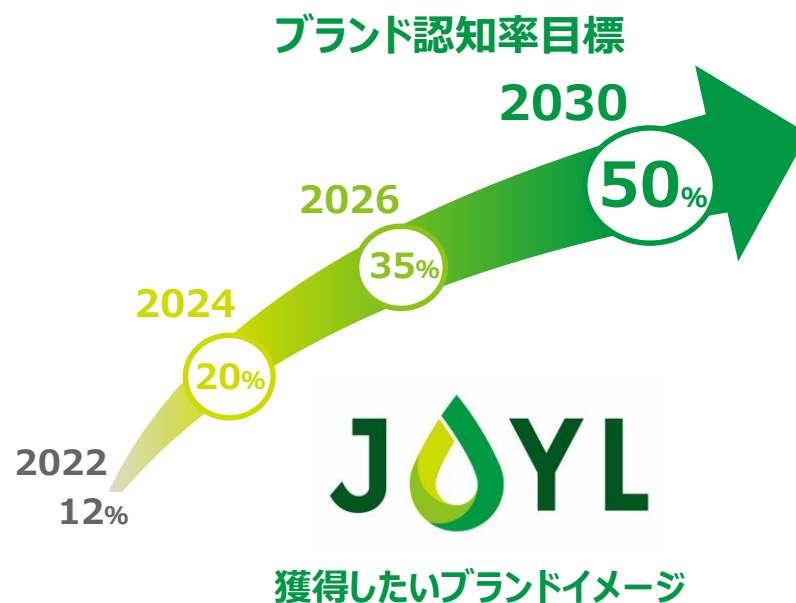
- 手ごろな価格での顧客獲得、収益改善
- 不採算製品のさらなる削減

- コストの先読み、早期対応
- 価値に見合った価格での販売



コミュニケーションブランドJOYL育成による企業価値向上

- 2023年度よりブランドコミュニケーションを本格化。ブランド認知・浸透に向け、継続的な投資を実施
- コミュニケーションブランドを受け皿とし、事業活動で創出した価値を蓄積し、企業価値向上を図る



	2024	2026	2030
● 地球環境に配慮している	20%	20%	30%
● 挑戦する意思がみえる	15%	20%	25%
● 社会課題に向き合っている	15%	20%	25%

海外事業の基盤強化

専門組織の設置による海外事業の体制強化



輸出ビジネスの
競争力向上・
市場開拓



海外子会社・
関連会社の活用
による現地販売拡大



非連続成長
機会の追求

収益基盤の強化

マーガリン事業の収益改善

CTOの執行責任の下で
構造改革専門組織の立ち上げ

重点取り組み

CPTPP運用開始をうけた
PF社※への生産拠点移管加速

機構改正
による
実効性強化

バリューチェーン改革推進による効率化

COOの執行責任の下で
収益改善と資産圧縮

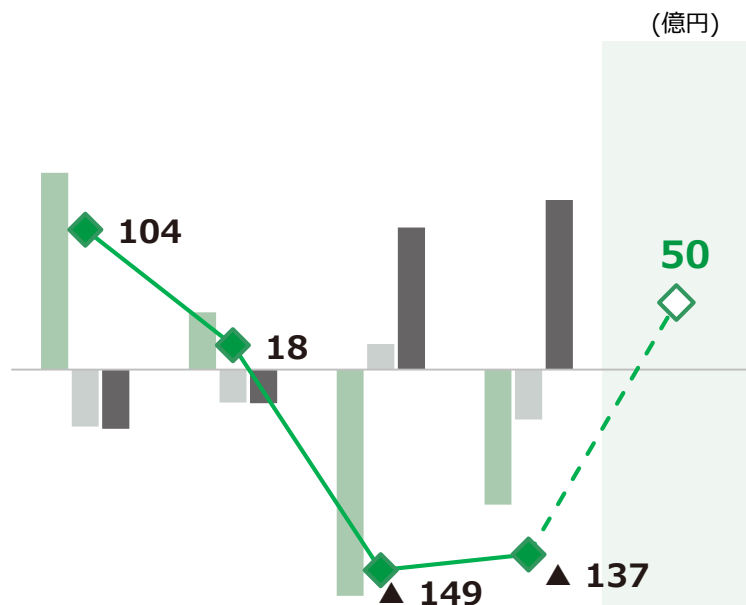
重点取り組み

製造から販売まで
バリューチェーン全体における効率化

※PF社…Premium Fats Sdn Bhd マーガリンやショートニング製品（製菓・製パン用途）の製造・販売（マレーシア・連結子会社）

財務戦略・株主還元

キャッシュフロー推移予想



(年度)	2019	2020	2021	2022	2023予想
営業C/F	146	43	▲ 168	▲ 100	
投資C/F	▲ 42	▲ 24	19	▲ 37	
財務C/F	▲ 44	▲ 25	106	126	
フリーC/F	104	18	▲ 149	▲ 137	50

2023年度のポイント

■ 成長投資にバランスを重視した資本配分

投資

- 設備投資約50億円を予定 (ESG関連投資含む)
- 成長投資

資産圧縮

- 在庫削減
- 政策保有株式の削減

株主還元

- 1株当たり年間 **35**円 を予定

第六期中期経営計画の定量目標

	2022年度 実績	2023年度 業績予想	2026年度 中計目標
営業利益	7.3億円	30億円	110億円
ROE	1.0%	3.0%	8.0%
ROIC	0.4%	1.5%	5.0%
EPS	29.8円	86.2円	260円



參考資料

2022年度 営業利益増減分析詳細

営業利益 前年同期比較

(億円)

	2021年度 実績	2022年度 実績	対前年同期 増減	詳細
油脂事業	3.3	13.9	+10.7	
家庭用				販売価格:+56.5、販売重量:▲5.3
業務用				販売価格:+338.9、販売重量:+2.2
スペシャリティフード事業	▲6.2	▲8.2	▲1.9	
乳系PBF	▲8.7	▲10.1	▲1.4	販売価格:+19.6、販売重量:▲4.7
食品素材	2.5	1.9	▲0.5	販売価格:+11.6、販売重量:▲1.4
その他	2.7	1.6	▲1.2	
総計	▲0.2	7.3	+7.3	

油脂事業 営業利益増減分析詳細

	対前年同期 増減額	詳細
製品販売	+392.3	
販売価格	+395.4	汎用品:+279.9、高付加価値品:+115.5
販売重量	▲3.1	汎用品:▲6.5、高付加価値品:+3.4
参考) 高付加価値品	+118.9	家庭用: +6.9、業務用:+112.0
油脂コスト	▲335.4	
原料コスト	▲539.7	大豆:▲88.4、菜種:▲152.4、為替:▲229.4、購入油:▲49.1、他:▲20.4
ミール販売	+204.3	販売価格:+204.8、販売重量:▲0.5
その他コスト	▲46.2	
1-ティリティ・資材他	▲39.9	1-ティリティ: ▲31.9、資材他: ▲8.0
工場固定費	+2.4	
物流費	▲2.1	
一般経費他	▲6.6	人件費:▲2.8、広告費:▲1.5、販売促進費:▲1.5、その他:▲0.8

*為替・・・21年度:110円/1ドル、22年度:131円/1ドル (期中平均レート)

2023年度業績予想 営業利益増減分析詳細

営業利益 前年同期比較

	2022年度 実績	2023年度 予想	対前年同期 増減	詳細
油脂事業	13.9	30.0	+16.1	
家庭用				販売価格: +41.4、販売重量: +0.9
業務用				販売価格: ▲17.2、販売重量: +1.2
スペシャリティフード事業	▲8.2	0.0	+8.2	
乳系PBF	▲10.1	▲4.0	+6.1	販売価格: +4.5、販売重量: ▲2.0
食品素材	1.9	4.0	+2.1	販売価格: +8.6、販売重量: +2.8
その他	1.6	0.0	▲1.6	
総計	7.3	30.0	+22.7	

(億円)

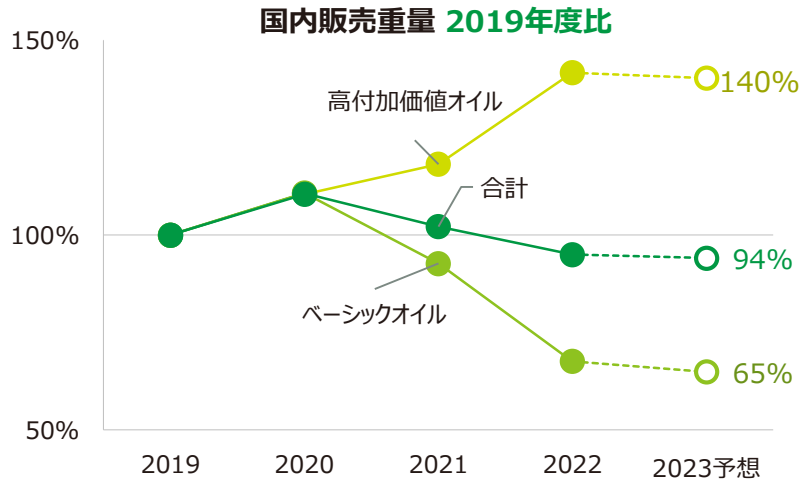
油脂事業 営業利益増減分析詳細

	対前年同期 増減額	詳細
製品販売	+24.4	
販売価格	+24.1	汎用品: ▲7.7、高付加価値品: +31.9
販売重量	+2.1	汎用品: ▲1.7、高付加価値品: +3.9
参考) 高付加価値品	+35.8	家庭用: +32.1、業務用: +3.6
油脂コスト	+24.3	
原料コスト	+37.8	大豆: +55.4、菜種: +154.1、為替: ▲86.9、購入油: ▲23.8、他: ▲61.0
ミール販売	▲15.4	販売価格: ▲13.7、販売重量: ▲1.7
その他コスト	▲32.6	
1-ティリティ・資材他	+1.6	1-ティリティ: +1.6、資材他: +0.0
工場固定費	▲4.7	
物流費	▲6.1	
一般経費他	▲23.3	

*為替・・・22年度:131円/1ドル、23年度:138円/1ドル (期中平レート)

油脂事業：市場環境

家庭用油脂



2019年度を1として算出
INTAGEデータ (SCI 油脂市場:2019年4月~2023年3月) より推計

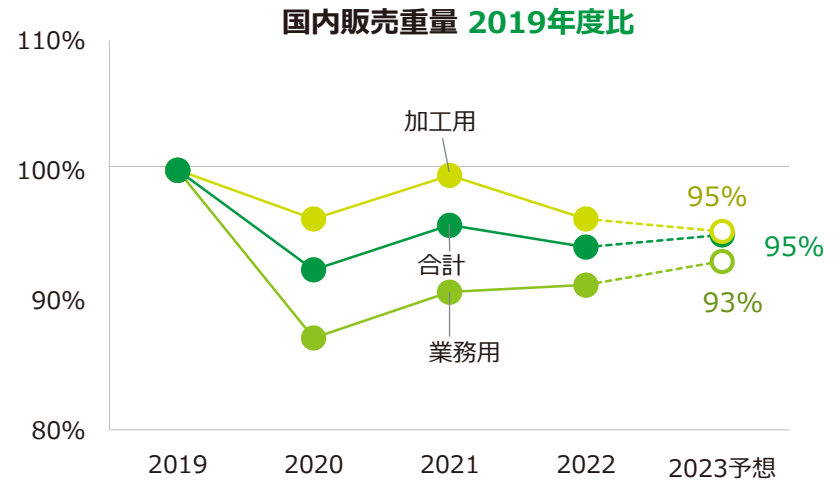
- 新型コロナ禍のすごもり需要拡大により、2020-2021年度は需要が拡大したが、2022年度は、価格改定による節約志向の高まりを受け、キャノーラ油、サラダ油などのベーシックオイルを中心に市場は縮小傾向
- 2023年度も生活者の買い控えは継続することが懸念されるも、市場が拡大しているこめ油、機能性油などの高付加価値オイル※は前年を上回ると想定

※高付加価値オイル:当社では、オリーブオイルやこめ油、ごま油、健康などの機能が付加された機能性油などを高付加価値品と定義しています

2023年度前年比予想

家庭用市場合計 **99%** ベーシックオイル **96%** 高付加価値オイル **101%**

業務用油脂



2019年度を1として算出
酒類月報より推計

- 新型コロナウイルス感染症流行にともなう行動制限などの影響により、2020年度以降、外食市場を中心に需要が減少
- 2022年度は、行動制限緩和にともない人流は回復傾向にあるものの、原料価格高騰による価格改定の影響により、加工用を中心に油の使用量が減少
- 2023年度は、外食市場の活性化を見込むが油の使用量は減少、特に加工用については物価高による生活者の購買意欲の低下により、厳しい状況が続くと想定

2023年度前年比予想

業務用市場合計 **99%** 業務用外食・中食向 **99%** 加工用 **99%**

原料動向

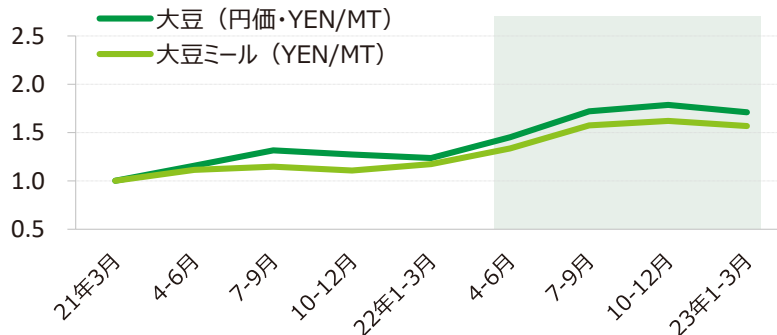
原料・為替状況

	22'1Q		22'2Q		22'3Q		22'4Q		23'1Q		23'2Q		23'3Q		23'4Q	
	結果 (前年)	前年差	結果 (前年)	前年差	結果 (前年)	前年差	結果 (前年)	前年差	結果 (前年)	前年差	予想前提 (前年)	前年差	予想前提 (前年)	前年差	予想前提 (前年)	前年差
大豆 ¢/Bu ^{※2}	1,559.0 (1,391.6)	+167.4	1,684.2 (1,497.3)	+186.9	1,530.0 (1,358.6)	+171.4	1,433.4 (1,254.3)	+179.1	1,508.6 (1,559.0)	▲50.4	1,436.0 (1,684.2)	▲148.2	→			
菜種C\$/MT ^{※3}	1,057.3 (737.7)	+319.6	1,123.3 (864.7)	+258.6	835.9 (885.4)	▲49.5	871.7 (993.7)	▲122.0	839.4 (1,057.3)	▲217.9	887.0 (1,123.3)	▲236.3	→			
ミル ^{※1} リ-%	57.0 (63.8)	▲6.8	52.3 (55.9)	▲3.6	58.0 (53.2)	+4.8	54.8 (54.8)	±0.0	60.7 (57.0)	+3.7	55.0 (52.3)	+2.7	→			
海上運賃us\$/t ^{※4}	77.8 (58.2)	+19.6	85.4 (68.4)	+17.0	69.5 (89.6)	▲20.1	58.6 (82.4)	▲23.8	52.3 (77.8)	▲25.5	—	—	→			
為替レート	117.3 (107.0)	+10.3	130.7 (110.5)	+20.2	139.4 (111.1)	+28.3	142.5 (114.7)	+27.8	131.9 (117.3)	+14.5	140.0 (130.7)	+9.3	→			

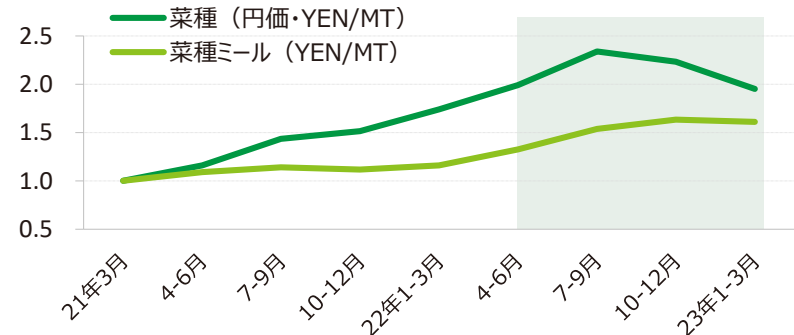
※1: 搾油原料の買付けは基本的に約3カ月前の時点にて行っており、本図では各期の業績に影響のある期間相場の平均値を示しています ※2: シカゴ相場 ※3: ウィネベグ相場
4Qは10/1以降の平均値 ※4: US Gulf-Japan PANAMAX ※5: 為替TTSレート

原料価格推移

大豆・大豆ミール



菜種・菜種ミール



※2021年3月を1として算出

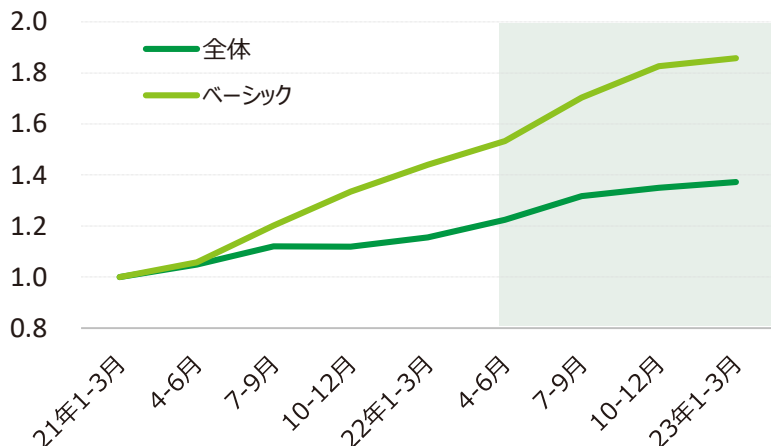
価格改定状況

油脂製品の価格改定状況

改訂日	対象/額	改訂日	対象/額
2021/4/1	家庭用/業務用/加工用油脂 30円/kg 以上	2022/4/1	家庭用/業務用/加工用油脂 40円/kg以上 ^{※2}
2021/6/1	家庭用/業務用/加工用油脂 30円/kg 以上	2022/7/1	家庭用/業務用/加工用油脂 60-400円/kg以上 ^{※3}
2021/8/2	家庭用/業務用/加工用油脂 50円/kg 以上	* 2023/4/1より家庭用、業務用のオリーブオイル、ごま油、こめ油などの価格改定を実施 ※1: 菜種油脂製品のみ対象 ※2: 2022/2/1に改訂した菜種油脂製品を除く全商品対象 ※3: 全商品対象	
2021/11/1	家庭用/業務用/加工用油脂 30円/kg 以上		
2022/2/1	家庭用/業務用/加工用油脂 40円/kg以上 ^{※1}		

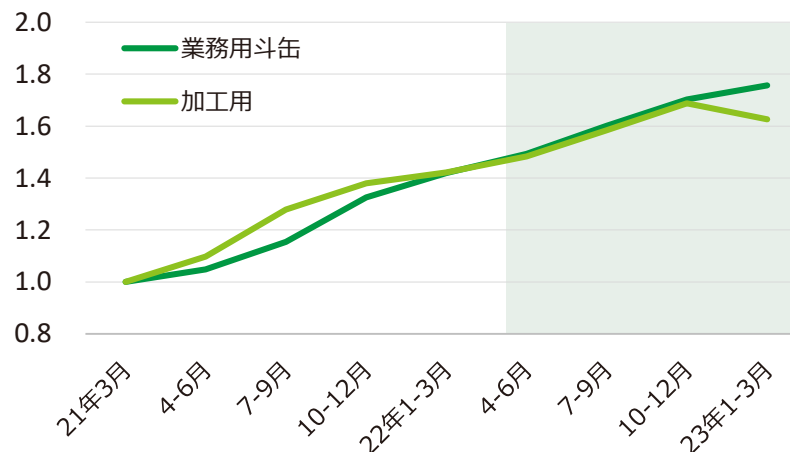
外部データ：価格改定推移

家庭用油脂製品



2021年1-3月を1として算出
出典：INTAGE (SRI+ 油脂市場:2021年1月～2023年3月)

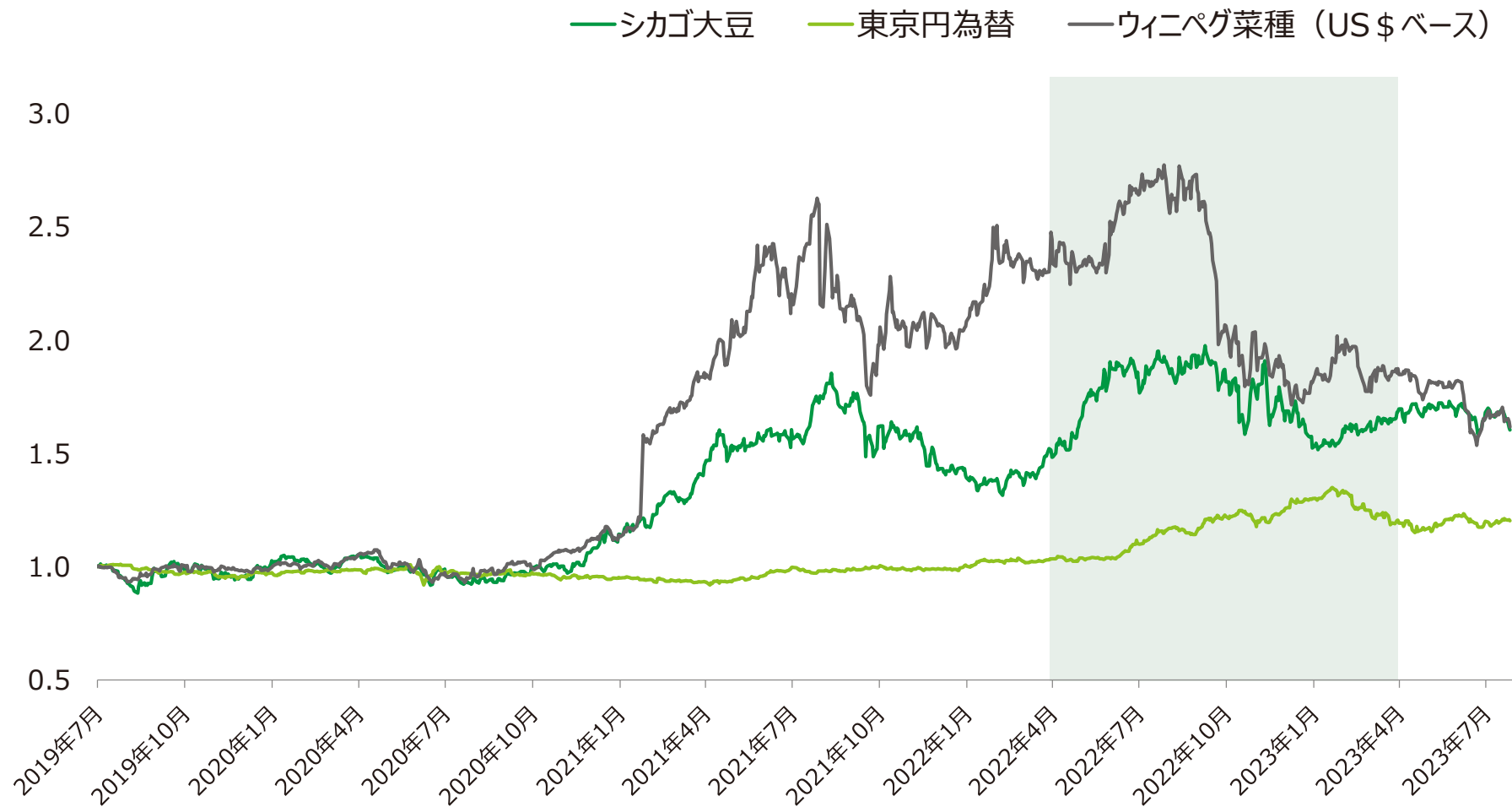
業務用油脂製品



2021年1-3月を1として算出
出典：日経相場情報

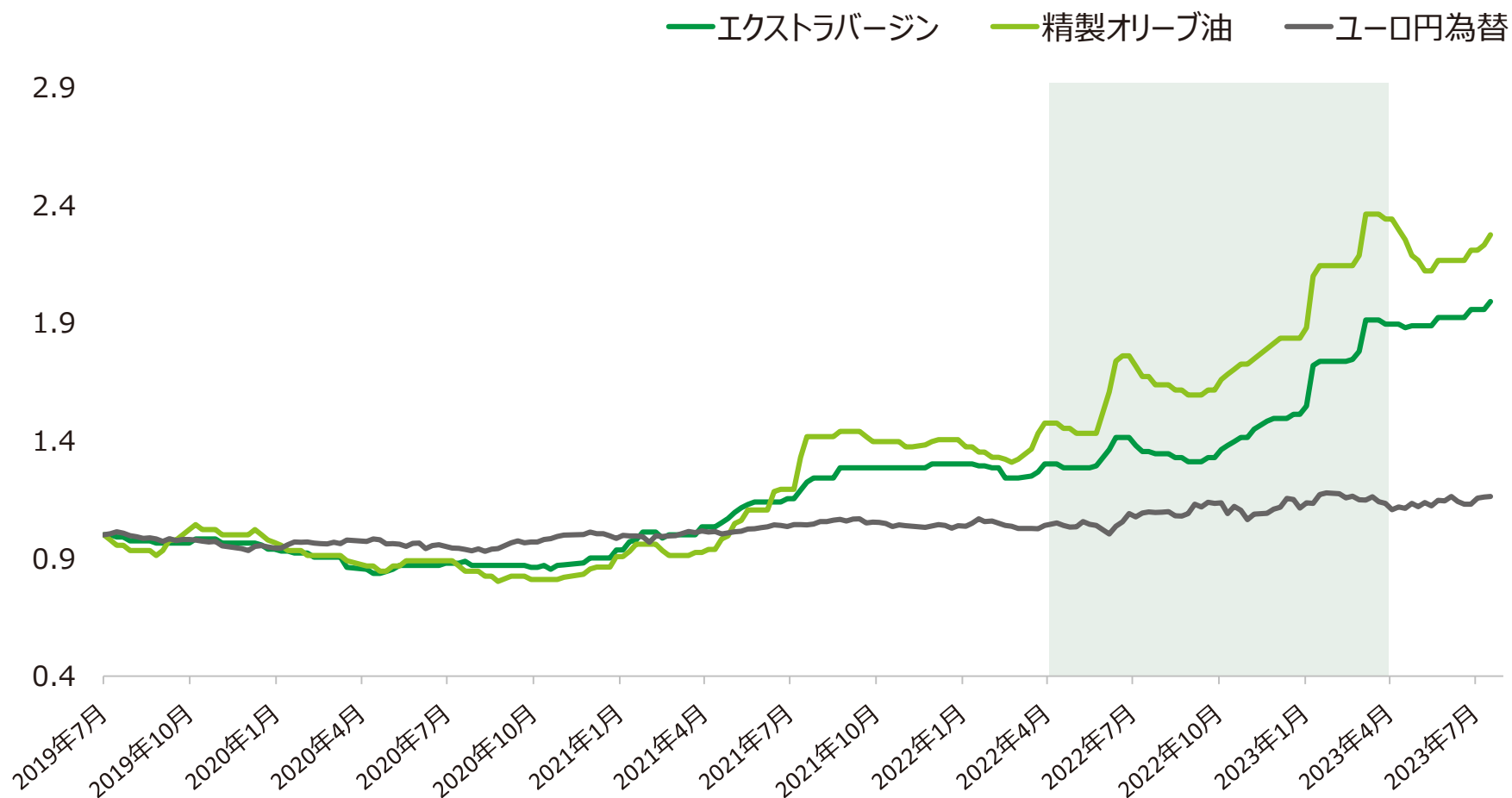
大豆、菜種、為替(米ドル)の相場動向

*原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2019年4月を1とする(図中では2019年7月を1となる))

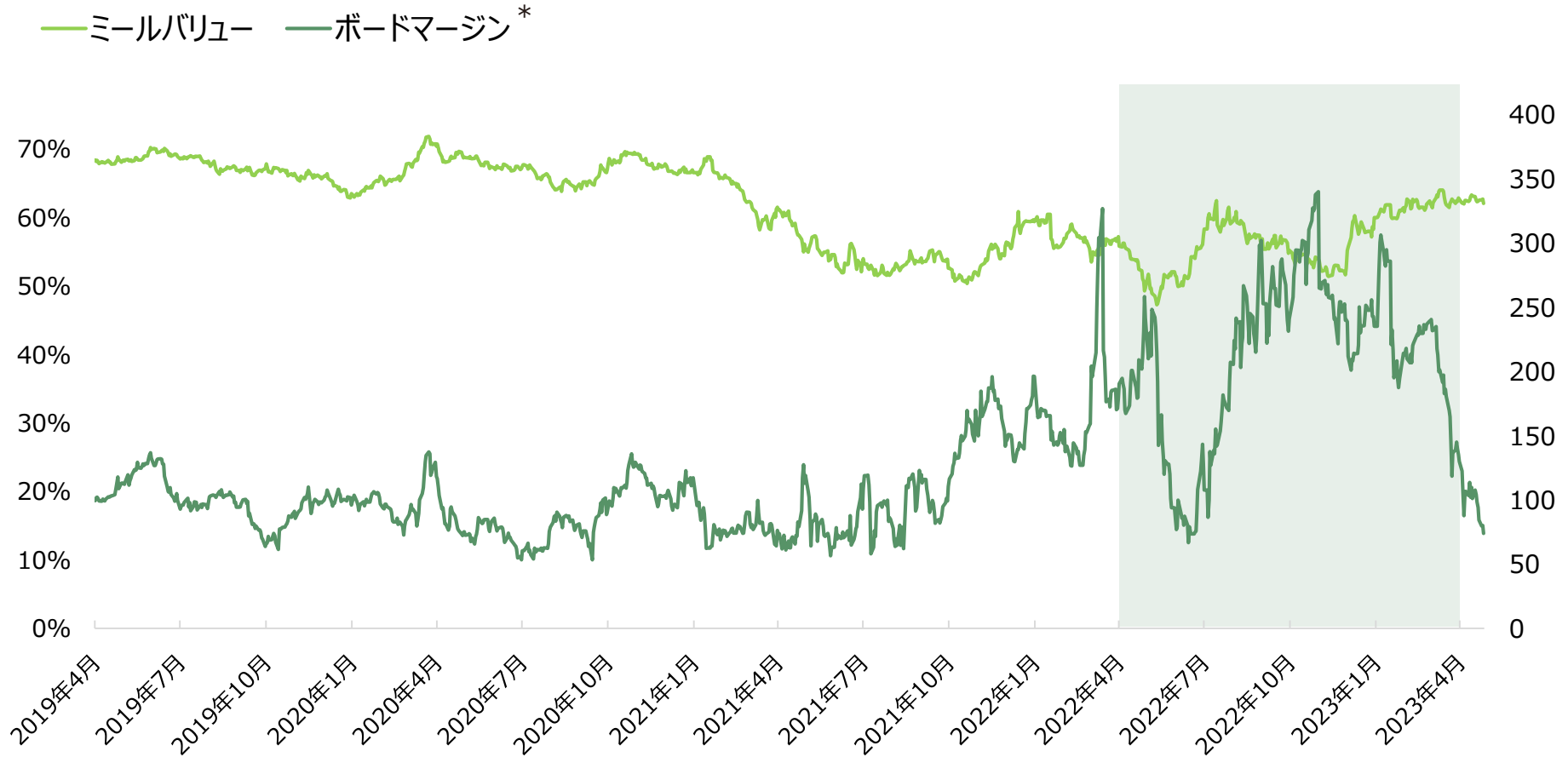


オリーブ、為替(ユーロ)の相場動向

*原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2019年4月を1とする(図中では2019年7月を1となる))



ミールバリューの動向



* シカゴ大豆定期 1 ブッシェルから産出する大豆油と大豆ミールの価値の合計と大豆 1 ブッシェルの価格の差

主な経営指標

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 予想	2026年度 目標	2030年度 目標※2
	第五期中期経営計画					第六期中期経営計画			
売上高	1,834	1,868	1,782	1,648	2,016	2,604	2,620	—	2,500
営業利益	40	57	67	67	-0.2	7.3	30	110	240
営業利益率	2.2%	3.0%	3.7%	4.1%	0.0%	0.3%	1.1%	—	9.0%以上
ROE	4.9%	5.6%	5.9%	5.7%	2.1%	1.0%	3.0%	8.0%	12.0%以上
ROIC	2.4%	3.6%	4.3%	4.1%	-0.0%	0.4%	1.5%	5.0%	8.0%
EPS (円) ※1	124.8	144.2	158.1	159.6	59.2	29.8	86.2	260	500以上
D/Eレシオ	0.42	0.30	0.26	0.24	0.32	0.47	0.44	—	0.50以下※3
CCC	117日	112日	114日	124日	118日	116日	115日	—	—
配当性向	36.1%	31.2%	31.6%	31.3%	84.4%	67.1%	40.6%	40%	40%

※1：株式分割換算後

※2：第六期中期経営計画当初目標値（2021年5月20日公表数値）

※3：M&A等による成長投資を最大300億円実施した場合は0.7迄増加見込み



JOYL

Joy for Life